

平成31(2019)年度 江戸川区立鹿骨東小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	○思いやりのある子・・・互いの人格を尊重し、心豊かな子 自己肯定感の高い子の育成 ○健康で明るい子・・・安全で健康な生活を心がけ、体力のある子の育成 ○よく考えよくする子・・・自ら学び、深く考える子の育成 ○ねばり強くやりぬく子・・・目標をもち、最後までやり遂げる子の育成	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○子どもたちにとって、学ぶ楽しさが味わえ、成長を実感できる学校を目指します。 ○子どもたちにとって、安全で安心感のもてる学校を目指します。 ○保護者や地域にとって、誇りと信頼がもてる学校を目指します。 ○教職員にとって、教育者としての喜びが味わえる学校を目指します。
	前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>学校関係者評価委員会では、本校の教育について地域関係者・保護者からおおむね理解を得ることができた。おやじの会、図書ボランティア、グリーンボランティア、登校見守り、鹿骨東小学校ふるさと学習などについて地域や保護者と連携した教育活動を展開し、協働することができた。児童は、明るく素直に育っている。 <課題>朝読書、補習タイムやほねぶとタイムを日常的に行う体制を整え全校で取り組んでいるが、学力や体力の数値目標が達成できていない。さらに教員の授業改善、授業のユニバーサルデザイン化の推進を行い、教育の質の維持向上を目指す。	

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	連携教育プログラムに基づいた小中の授業参観・協議会・・・年3回 6年生の体験授業・部活体験の実施連携・・・年1回	児童アンケートで中学生になることに希望をもつ児童(6年)9割	A	B	6月に中学校の授業を参観し、子供たちの学習への取組方について共通理解を図った。10月には、中学での学習や部活を体験することができた。その結果、児童アンケートにより中学校での生活を楽しみがしていると答えた児童が中間評価では7割に満たなかったが、8割近くになった。	A	小中の連携はしつかりできてきていると思う。その結果子どもたちの評価も6割から8割に上がっている。今後も更なる努力を続けてほしい。	小中教員の事前協議を確実に行う。また、小中連携プログラムを児童の気持ちに留意しつつ、体験授業等を計画通り実施する。
	地域を生かした教育の推進	地域の自然や人材を活用した教育活動の実施	PTAと協働した鹿骨東小ふるさと学習プログラム・・・各学年1回 江戸川区相模連盟と連携した相模教室の実施 地域を活用した学習・・・各学年年3回 学校応援団の活用	児童アンケートで地域の人や自然の良さを感じる児童9割	A	A	「ふるさと学習」として、1年風作り、2年寄せ植え、3年組子細工、4年江戸戸子、5年生しめ縄、6年つししのぶ、を行った。自然のよさを感じている児童は現在9割近くに増えた。PTAとの協働、学校応援団の方へ栽培活動、図書ボランティア、登校見守りを行っていただく体制ができ保護者にも好評である。	A	地域の人材や学校応援団を有効に活用して学習していることが伺われる。一体感がより大変すばらしい。今後も是非継続してほしい。	PTAとの連携をより一層固めながら、地域への思いを大切に。計画通り確実に実施する。
	環境教育の推進	持続可能な社会を創造することを目指す教育活動の実施	もったいない運動の取組実施全学年 環境を考える学習・・・各学年1回以上	児童アンケートでもったいない運動への参加に肯定的な回答8割	A	A	ゴミ量、節電、節水などの項目において削減がみられた。2学期にもったいない集会を実施するなど、児童意識を高めることができた。児童ももったいない運動への参加意識は、8割強に向上したのは、成果である。	A	子どもたちの意識が高まっていることはとても良いこと。今後も声掛けをしてほしい。来年度の牛乳パックの回収方法については検討の必要があると思う。	定期的な点検や途中経過の発表などを行い、常に環境に対して意識するようにしていく。
	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	教材提示装置やデジタル教科書の活用を週3日以上実施 ICT7ツツと連携した授業;年5回 目的を明確にしたICT教員研修;年3回	学年に応じて、ICTを活用できる児童の割合8割	A	A	ICT研修会は、計画的に実施した。9割近くの児童が、各学年の目標を達成している。パソコンを使った学習については、どの児童も意欲的である。プログラミング教育を計画的に進める必要がある。	A	計画通り研修会が実施され、その成果としてPCを使った授業が進んでいることは素晴らしい。努力の様子がみられる。	プログラミング教育の研修を積み重ね、教員の指導力を付けていく。
教員の資質向上	特別支援教育の推進	校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 各学級のユニバーサルデザイン化の推進	専門員・SC・心理士・巡回指導教員・担任との連携・・・各学期授業参観・適時 授業のユニバーサルデザイン化の推進 個別的教育支援計画・個別指導計画の作成と活用	児童アンケートで学校生活に肯定的な回答8割 学級崩壊なし	A	A	SC、心理士、専門員、介助員で連絡を密に取るなど児童の困りに応じた支援体制ができている。児童アンケートで「楽しい」と答える児童は9割近くおり、学校全体は落ち着いている。しかし些細なことでのトラブルがみられることから、実態をよく把握し互いの気持ちの理解の方法や伝え方などを指導し、人間関係形成力を付けていく必要がある。	A	様々なケースへの対応は大変だがと思うが、いろいろな部署と連携しながら行っていることがとても良い。今後は、家庭との協力も仰ぐ必要があると感じる。	今後も教職員の連携を密にするともに、区教委や子育てセンター、警察等関係諸機関との連携をより一層深めて指導していく。
	教員の授業力の向上	主体的に学び、表現しようとする児童の育成を目指す、主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善	授業観察:年3回以上計72回以上 研究授業:年6回と事前授業10回 OJT研修:年10回以上	児童アンケートで分かる授業への肯定的な回答8割	A	A	全学級で計画的に授業改善に努めている。9割以上の児童が授業が分りやすいと感じている。校内研修やOJT研修などで授業力改善を目指してきた成果である。	A	児童の評価が高いことはとても良い。先生方の努力を感じる。	校内研究や研修等を確実にし、授業の質の改善を常に図っていく。
	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施 改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	補習タイムの実施・・・年100回以上 各学期に「ベシツク」診断テスト実施 家庭学習期間の実施:年4回	算数のワークテストの基礎・基本問題で全国平均以上の回数が8割 診断テストの平均正答率が一学期より5ポイントアップ 家庭学習カードの提出10割	A	B	補習は、週4回計画的に実施した。ワークテストの基礎・基本の問題は8割ほどの理解がみられる。東京ベシーツドリルで5ポイントアップは5学級にとどまった。家庭学習の提出率は9割近くになった。目標を立て、計画して、実践して振り返りという学び方をさらに定着させる必要がある。	B	目標値を高く設定しすぎている面もあるとは思。また、学校の計画ととら家庭学習をしつかり行う必要もあると感じる。	授業で分かる児童を増やし、繰り返し学習を徹底する。その上で家庭学習への啓発も強化していく。
いきいきと学ぶ教育の充実	読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実	図書館を活用した探究的学習を取り入れた授業・・・各学期1回以上(12時間以上) 図書ボランティアの活用による学校図書館の整備の推進	調べたことを成果物としてまとめられる児童9割 児童アンケートで学校図書館の活用に関する肯定的な回答9割	A	A	教育課題実践推進校として校内研究を進め、全学年で図書館を活用した探究的学習を推進した。自らの問いをもつ、学校図書館を活用して主体的に調べ、ほぼ全児童が、成果物としてまとめることができた。図書館スーパースター、図書ボランティアと連携し、図書整備も進み、他校の手本となった。	A	研究発表ができ、児童が自分から調べたりまとめたりすることが自然に行われたのは素晴らしい。図書館の整備も進んでとても良いことだと思う。今後は続けてほしい。	図書館の活用読書科の充実は継続させていく。さらに研究の成果をもとに、他教科でも実践し発展させていく。
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	ほねぶとタイムの実施・・・週1回 みんなでドン! クラスでドン! 大縄大会 持久走記録会 練習タイムの実施・・・年20回以上	児童アンケートで、運動を進んでいるに肯定的な回答児童8割 新体力テストにおいて、総得点が昨年度より上がった児童が9割	A	A	ほねぶとタイムは毎週計画に実施した。その結果、児童アンケートによる運動に対する肯定的な回答が8割を超えた。新体力テストの分析から、ほとんどの児童が、総得点は向上した。しかし都の平均と比較するとやや下回る。	A	児童の目標達成割合が向上したことはとても良いと思う。毎日元気よく遊ぶ姿が見られることもよい。	体育の授業改善、ほねぶとタイムの確実な実施、家庭との連携を行っていく。
	オリパラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実	「オリンピック・パラリンピック教育レガシープラン」に基づいた授業・・・35時間 オリパラコーナーの工夫・充実・・・年6回以上更新 外部講師を活用した授業・・・各学年1回以上	児童アンケートでやり遂げた喜び・将来への夢や希望に肯定的な回答9割 オリンピック・パラリンピックに興味・関心が高まった児童9割	B	A	「オリンピック・パラリンピック教育レガシープラン」に基づいて、全ての学年で計画的に実施することができた。女子バレーのオリピアン、学生ラグビー選手、和太鼓ドンドコなど招聘し、本物に出会う良さを味わうことができた。夢や希望をもつ児童の割合が9割より数値目標の達成率は、90%を超えた。	A	和太鼓ドンドコを見させてもらったが、すばらしかった。また、経験談等を聞くこともとても良いと思う。様々な事を企画しており、先生方は努力している。	来年度もオリパラ学習を充実させ、児童に夢や希望をもたせる活動を確実に実施する。
	外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	担任がT1で行う授業・・・全授業時数の8割	児童アンケートで英語の学習が楽しいと答える児童9割	B	B	英語の学習が楽しいと答えた児童が8割近くに増えた。4月から、外国語科として新学習指導要領の実施に当たり、月担任がT1で授業を実践していくことができるよう、指導力向上を目指す必要がある。	B	楽しいと答えた児童が増えたことはよかったです。ALTの活用が成果だと思。今後はコミュニケーションの向上を目指して努力してほしい。	ALTの活用を踏まえようとして、担任の授業力を更に高めていく。
健全育成の充実	健全育成の充実	生活習慣の向上・情報モラル意識の向上	「学級SNSルール」・「東小子どもルールブック」・「東小家庭学習の手引き」・「東小家庭学習がんばりカード」の作成と活用・・・年4回 情報モラルについての学習・・・各学年1回以上 学年単位の挨拶運動・・・年6回以上 生活習慣見直し集会・・・年3回	インターネット被害なし 児童アンケートで規範意識に対する肯定的な回答8割 児童アンケートで挨拶をしていると回答する児童9割	B	A	健全育成に向けた取組は計画通り実施した。児童アンケートによる挨拶をしていると回答する児童は、8割を超えているが、保護者アンケートでは、肯定的な回答が7割に満たず、児童の回答と聞きがある。規範意識に対する肯定的な回答は9割に近く、かなり意識が改善された。規範意識や挨拶については、保護者や地域の方と連携して繰り返し指導していく。	A	学校を訪問した時の挨拶が増えたように感じる。あはれ地域で会った時にもしっかり挨拶になることを期待したい。ただ、これは家庭での養も関係すると思う。中学校・高校にもつながることだけに今後の指導も続けてほしい。	来年度も健全育成に関わる外部講師を招いた授業を計画していき、挨拶に対する指導はより短い間隔で行う。また、家庭へ啓発していく。
	いじめ・不登校の早期解決	いじめ・不登校に応じた未然防止・早期発見に関する指導の充実	いじめ未然防止授業・・・各学期1回以上 いじめ防止「東つこう宣言」の作成提示・・・通年 SOSの出し方指導・・・5年生1回 校長講話・・・年3回 児童アンケート・・・年3回 生活指導委員会による情報共有・・・毎週金曜日 スクールカウンセラーの全員面接・・・5年 人権集会の実施・・・年3回	学校満足度調査(Q-U)による満足度の割合が全国平均を超える学級9割 いじめ・不登校の早期解決 継続なし	A	B	いじめは年3回の調査を実施し、その都度指導して解決してきた。今後もアンケートを高く児童の実態を把握することに努める。また、Q-U調査で学級の満足度の割合が全国平均より下回っている学級が7学級あった。今後は、学年や生活指導部で組織的に行動し、必ず複数で指導にあたるようにする。また、スクールカウンセラー・心理士と連携し、いじめの未然防止、早期発見により一層努めていく。	B	いじめほどどこでも起るものかと思。それに対して定期的に調査したり、「東つこう宣言」などの活動を行うことはとても良いことだと思う。今後も継続とフォローを望む。	いじめ調査の結果を詳細に調べ、それに対して定期的な調査に努める。また、全職員で組織的に対応・指導を継続する。
働き方改革の推進	計画に基づいた職務遂行	見通しをもった職務遂行	スクールサポートスタッフの有効活用・・・随時 職員室の1層の整理整頓	一斉定時退勤日の実施・・・月1回	A	A	SSSの活用は、定着させることができた。また、一斉退勤日の実施も月1回行っている。これからは、SSSを全教員がさらに活用することを進め、在校時間の短縮を図っていき、職員室の整理整頓も定期的に行っているが、日常的に注意していく必要がある。	A	SSSという制度を活用定着させたことはとても良い、先生方の仕事が増えている中、さらに制度を充実させてほしい。先生方の情熱は素晴らしい。	学校全体で職務効率化や教員の計画的な勤務を推進を更に進める。SSSの活用も計画的に行っていく。